

1999年刊『サバの本』の synaxarion 構成一覧

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2014-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩井, 憲幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/16483

1999年刊『サバの本』の synaxarion 構成一覽

岩井憲幸

はじめに

古代教会スラヴ語 (Old Church Slavonic, OCS と略称) を研究するスラヴィストは、この言語のカノン・テキストのひとつである『サバの本』 (Саввина книга, Sav と略称) を研究する際、これ迄 Щепкин の校訂本⁽¹⁾ に依拠してきた。しかるに最近、ブルガリアの Дограмаджиева が中心となり、ブルガリア科学アカデミーとロシア科学アカデミーが協力して次の書が刊行された。画期的な出版である。

О. А. Князевская, Л. А. Коробенко, Е. П. Дограмаджиева, Саввина книга, Древнеславянская рукопись XI, XI-XII и конца XIII века, Часть первая, М., 1999.

この刊行本の底本はロシア国立文書館 (РГАДА) 所蔵のフォンド 381 に含まれるコーデクス №14 である。このコーデクスは以下で述べるように制作年代が錯綜しており、上記 Щепкин 校訂本はこのうちの元の第 25 葉以下第 164 葉迄すなわち OCS のカノンとみなされる部分のみを翻刻したものである。

しかしながらコーデクス №14 は、総体としてはひとつのアブラコス⁽²⁾である。そこで本稿では、コーデクス №14 の synaxarion 部分につき、その構成の一覧を試みる。

1. 1999 年刊本の特徴は、テキスト全巻のモノクローム写真を掲載し、毎半葉ごとに翻刻と校訂注を付すことである。(Щепкин 校訂本リプリント版には巻末に 4 葉の写真が掲載されるのみ)。この写真と翻字と校訂注により、テキスト研究がその確実性を増した。ただし章飾りや заголовка (Z と略称) と呼ばれる、読誦文 (ペリコペー) に冠せられる曜日の指定・ペリコペーの指示 (福音書の別と Ammonios の章番号 (Am No と略称) とで示す) を含む一文は、多くの場合、彩色の故か失われており、本書では往時かろうじて判読できた Щепкин 校訂本を主に Карский 等に依拠して、印刷されている。

さらにもうひとつ重大な特徴は、コーデクス全体の折丁を精査したことであり、これによって従来葉の No を徹底して正したことにある。(Щепкин 校訂本序文でも一部の乱丁の指摘があるし、1989 年刊 Сводный каталог⁽³⁾ でも詳述されているが)。そして 25 a 以下、正しい No を上欄に第一に掲げ、もし誤っている場合はその左脇に離して Щепкин 校訂本での No を添えて掲げるといった方式をとっているのである。これは適切な処置といえよう。以上によって、Sav 研究にとってもロシア語史にとっても、本書は必須の書となった。

なお本書は〈Часть первая〉と銘うっているから、その続きがある筈だが、残念ながらいまだ刊行されていない。そこではさらなる研究の展開が示されると期待されるが、それはさておき、我々自身の研究を進めるためにあえて、本書により synaxarion の構成をうかがっておこうと考える。

2. コーデクス №14 の大きさは 17.3×14 cm とある。上述の如く、制作

年代が錯綜しており、さらに脱落も多い。今、本書の〈古文書学的記述〉の〈結論〉に従って、制作年代につき要点を示せば次のようである。(数字は本書 1999 年刊本での葉の番号)。

- 1) 写本第 1 部分：1-24 (13 c 末-14 c 初, 古代ロシアで制作)
- 2) 同 第 2 部分：25-153 (OCS カノンとしての Sav. 最古部分で, 11 c, 古代ブルガリアで制作)
- 3) 同 第 3 部分：154-165 (11 c 末-12 c 初, 古代ロシアで制作)
- 4) 第 4 部分：166 (11 c, 古代ブルガリアで制作)

コーデクス中、古代ブルガリア制作の第 2 部分が主要であることは言を俟たないが、これを補うように古代ロシア制作の他部分が添えられた観がある。いつ、どこでこのように 1 冊にまとめられたかが、疑問として残るところであるが、明確な答は出ていない。

3. 本稿のテーマに戻る。1999 年刊本を底本として、コーデクス №14 をひとつのアブラコスとして扱い、その synaxarion 部分の構成を具体的に表示したい。その上で特徴点をあげてみる。なお synaxarion そのものについては他書に譲る⁽⁴⁾。

4. 次がその一覧である。第 1 欄は通し番号、第 2 欄は教会暦⁽⁵⁾。第 3 欄は底本ペリコペーでの Am No で、ここでは底本に示されているまをアラビア数字に読みかえて記載し、もし誤っている場合は * を付す⁽⁶⁾。又、? は不読を示す。第 4 欄は incipit の型を示す (下記の a) を見よ)。第 5 欄は底本でのペリコペーの在否を示す。すなわち、○は完備を、×は存在せずを、△は一部存在することを各々示す。第 7 欄は底本での出現箇所を示す。Щепкин 校訂本の旧葉は () と * を付して並記した。a は recto, б は verso である。第 8 欄は備考欄で、* 付きの数字はこの一覧表の後に添えた

備考・注記番号に対応する。

1) 四福音書略号

Mt : マタイ伝

Mc : マルコ伝

L : ルカ伝

J : ヨハネ伝

2) Inc の型 (*後の説明上, 一覧表中に現れないものも列挙した。)⁽⁷⁾

φ : Inc なし。

I : ВЪ ОНО ВРѢМА

I' : ВЪ ОНО^В

I'' : ВЪ О^В

I a : ВЪ ВРѢМА ОНО

II : РЕЧЕ ГЪ СВОИМЪ ОУЧЕНИКОМЪ

II a : РЕЧЕ ГЪ КЪ ОУЧЕНИКОМЪ СВОИМЪ

II b : РЕЧЕ ГЪ ОУЧЕНИКОМЪ СВОИМЪ

II c : РЕЧЕ ГЪ КЪ СВОИМЪ ОУЧЕНИКОМЪ

III : РЕЧЕ ГЪ КЪ ПРИШЪДЪШИИМЪ КЪ НЪМОУ ИЮДЕОМЪ

III a : РЕЧЕ ГЪ КЪ ПРИШЪДЪШИИМЪ НЪМОУ ИЮДЕОМЪ

IV : РЕЧЕ ГЪ КЪ ВЪРОВАВЪШИИМЪ КЪ НЪМОУ ИЮДЕОМЪ

IV a : РЕЧЕ ГЪ КЪ ВЪРОВАВЪШИИМЪ ВЪ НЪ ИЮДЕОМЪ

V : РЕЧЕ ГЪ

VI : РЕЧЕ ГЪ ПРИТЪЧѢ СИИ

+α : 当該型に型以外の付加文を有するもの。

? : 型不明。

3) 写本名略号 (*依拠した刊本は参考文献 A を見よ。)

Zog : ゾグラフォス写本 (10-11 c, マケドニア, テトラ)

- Mar : マリア写本 (10-11 c, マケドニア, テトラ)
- Ass : アッセマーニ写本 (10-11 c, マケドニア, アブラコス)
- Sav : サバの本 (11 c, ブルガリア, アブラコス)
- Nik : ニコリェ福音書 (15 c, セルビア, テトラ)
- Ostr : オストロミール福音書 (11 c, ロシア, アブラコス)
- Arch : アルハンゲリスク福音書 (11 c, ロシア, アブラコス)
- Mst : ムスチスラフ福音書 (12 c, ロシア, アブラコス)
- Vat Pal : ヴァチカン・パリンプセスト・キリル・アブラコス (10-11 c?^⑥,
ブルガリア, アブラコス)
- Dob : ドブレイショ福音書 (13 c, ブルガリア, テトラ)
- Vrac : ヴラツァ福音書 (13 c, ブルガリア, テトラ)
- Ban : バニツァ福音書 (13 c, ブルガリア, テトラ)

コーデクス №14 所載 synaxarion 構成一覧表

通し 番号	教会暦	Am No	Inc	現存ペリコペーの 聖句番号	ペリコペー 存 否	出現箇所 (底本葉)	備 考
1	パスバ		⊗	J1.1-17	○	16-3a	*1
2	月	J	⊗	J1.18-28	○	3a-4a	*2
3	後 火	*J	I'	L24.12-35	○	4a-66	*3
4	第 水	J	I'	J1.35-51	○	7a-9a	
5	1 木	J	I'	J3.1-15	○	9a-106	
6	週 金	J	I'	J2.12-22	○	106-12a	
7	土	J	I'	J3.22-33	○	12a-136	
8	同 日	J	⊗	J20.19-31	○	136-156	*4
9	第 月	J	I'	J2.1-11	○	156-166	
10	2 火	J	II	J3.16-21	○	166-176	
11	週 水	J	III	J5.17-24	○	176-19a	
12	木	J	IIIb	J5.24-30	○	19a-20a	

13		金	J	IV	J5.30-47; 6.1-2	○	20a-22a	
14		土	J	I''	J6.14-27	○	22a-24a	
15		日	*J	I'	Mc 15.43-47; 16.1	○	24a-24b	*5
16	同 第 3 週	月				×		*6
17		火				×		
18		水				×		
19		木				×		
20		金				×		
21		土				×		
22	同 第 4 週	日				×		
23		月				×		
24		火				×		
25		水				×		
26		木				×		
27		金				×		
28	土				×			
29	同 第 5 週	日				×		
30		月				×		
31		火				×		
32		水				×		
33		木				×		
34		金				×		
35	土				×			
36	同 第 6 週	日				×		
37		月				×		
38		火				×		
39		水				×		
40		木				×		
41		金			?	-J14.11	△	25a
42	土			II	J14.10-21	○	25a-25b	*8

43	同 第 7 週	日	*J193	I'	J17.1-13	○	256-266	*9	
44		月	*J125	II	J14.27-31; 15.1-7	○	266-276	*10	
45		火	J		II	J16.2,13	○	276	*11
46		水	J		II	J16.15,23	○	276-28a	*12
47		木	J150		II	J16.23-33	○	28a(*140a)-286(*1406)	
48		金	J		I'+ α	J17.18,26	○	286(*1406)	*13
49		土	J226		I'	J21.14-25	○	286(*1406)-30a(*28a)	*14
50	ペンテ コステ		*J80	∅	J7.37-52; 8.12	○	30a(*28a)-31a(*29a)	*15	
51	後 第 1	月	*Mt183	V	Mt18.10-20	○	31a(*29a)-32a(*30a)	*16	
52		土	*J39	V	Mt5.42-48	○	32a(*30a)-326(*306)	*17	
53		日	Mt83	II	Mt10.32-33, 37, 39-40; 19.27-30	○	326(*306)-33a(*31a)	*18	
54	同 第 2	土	Mt50	V	Mt7.1-8	○	33a(*31a)-34a(*32a)		
55		日	Mt20	I'	Mt4.18-23	○	34a(*32a)		
56	同 第 3	土	Mt61	V	Mt7.24-29; 8.1-4	○	346(*326)-35a(*33a)	*19	
57		日	*J47	V	Mt6.22-34	○	35a(*33a)-36a(*34a)	*20	
58	同 第 4	土	Mt67	I'	Mt8.14-23	○	36a(*34a)-366(*346)		
59		日	Mt64	I'	Mt8.5-13	○	366(*346)-376(*356)		
60	同 第 5	土	Mt71	I'	Mt9.9-13	○	376(*356)-38a(*36a)		
61		日	Mt69	I'	Mt8.28-34; 9.1	○	38a(*36a)-386(*366)		
62	同 第 6	土	Mt74	I'	Mt9.18-26	○	386(*366)-39a(*37a)		
63		日	Mt70	I'	Mt9.1-6,8	○	39a(*37a)-396(*376)	*21	
64	同 第 7	土	Mt96	V	Mt10.37-42	○	396(*376)-40a(*38a)		
65		日	Mt75	I'	Mt9.27-35	○	40a(*38a)-406(*386)		
66	同 第 8	土	Mt122	V	Mt12.30-37	○	406(*386)-41a(*39a)		
67		日	Mt146	I'	Mt14.14-22	○	41a(*39a)-42a(*40a)		
68	同 第 9	土	*Mt223	I'	Mt15.32-39	○	42a(*40a)-426(*406)	*22	
69		日	*Mt218	I'	Mt14.22-23, 25-34	○	426(*406)-43a(*41a)	*23	
70	同 第 10	土	*Mt227	I'	Mt17.24-27; 18.1-4	○	43a(*41a)-436(*416)	*24	
71		日	*Mt221	I'	Mt17.14-23	○	44a(*42a)-446(*426)	*25	

72	同第11日	土	*Mt 242	I'	Mt 19.3-12	○	446(*426)-45a(*43a)	*26
73		日	*Mt 244	VI	Mt 18.23-35	○	45a(*43a)-46a(*44a)	*27
74	同第12日	土	*Mt 259	I'	Mt 20.29-34	○	46a(*44a)-466(*446)	*28
75		日	*Mt 200	I'	Mt 19.16-26	○	466(*446)-476(*456)	*29
76	同第13日	土	*Mt 268	I'	Mt 22.15-22	○	476(*456)-48a(*46a)	*30
77		日	*Mt 157	VI	Mt 21.33-42	○	48a(*46a)-486(*466)	*31
78	同第14日	土				×		*32
79		日				×		
80	同第15日	土		?	Mt 24.10-13	△	49a(*47a)	
81		日	Mt	I'	Mt 22.35-46	○	49a(*47a)-496(*476)	
82	同第16日	土	Mt	II	Mt 24.34-37	△	496(*476)	*33
83		日				×		*34
84	新年第1日	土				×		
85		日				×		
86	同第2日	土		?	L 5.18-26	△	50a(*48a)-506(*486)	
87		日	L	V	L 6.31-35	△	506(*486)	
88	同第3日	土				×		*35
89		日				×		
90	同第4日	土				×		
91		日		V	L 8.7-15	△	51a(*49a)-516(*496)	
92	同第5日	土	L	I'	L 7.1-10	○	516(*496)-526(*506)	
93		日	L	VI	L 16.19-20, 22-31	○	526(*506)-536(*516)	
94	同第6日	土	L	VI	L 8.16-21	○	536(*516)-54a(*52a)	
95		日	L	I'	L 8.41-56	○	54a(*52a)-55a(*53a)	
96	同第7日	土	L	I'	L 9.1-6	○	55a(*53a)-556(*536)	
97		日	L	I'	L 8.27-39	○	556(*536)-57a(*55a)	
98	同第8日	土	L	I'	L 9.37-43	○	57a(*55a)-576(*556)	
99		日	L	I'	L 10.25-37	○	576(*556)-586(*566)	

100	同第9	土	L	I'	L9.57-62	○	586(*566)-59a(*57a)	
101		日	L	VI	L12.16-21	○	59a(*57a)-596(*576)	
102	同第10	土	L	II	L10.19-21	○	596(*576)-60a(*58a)	
103		日	L	I'	L13.10-17	○	60a(*58a)-606(*586)	
104	同第11	土	L	V	L12.32-40	○	606(*586)-616(*596)	
105		日	L	VI	L14.16-24	○	616(*596)-62a(*60a)	
106	同第12	土	L	VI	L13.19-29	○	62a(*60a)-63a(*61a)	
107		日	L	I'	L17.12-19	○	63a(*61a)-636(*616)	
108	同第13	土	L176	I'	L14.1-11	○	636(*616)-646(*626)	
109		日	L217	I'	L18.18-27	○	646(*626)-656(*636)	
110	同第14	土	*L210	V	L16.10-15	○	656(*636)-66a(*64a)	*36
111		日	*L224	V	L17.3-10	○	66a(*64a)-666(*646)	*37
112	同第15	土	L	VI	L18.2-8	○	666(*646)-67a(*65a)	
113		日	L	VI	L18.10-14	○	67a(*65a)-676(*656)	
114	同第16	土	L246	II	L20.46-47; 21.1-4	○	676(*656)-686(*666)	*38
115		日	*L15?	I	Mt15.21-28	○	68a(*66a)-686(*666)	*39
116	断肉週前	土	*L224	II	L11.5-13	○	686(*666)-696(*676)	*40
117		日	L190	VI	L15.11-32	○	696(*676)-71a(*69a)	
118	断肉週	土	L???	∅	L21.8-9, 25-27, 33-36	○	71a(*69a)-72a(*70a)	*41
119		日	Mt273	V	Mt25.31-46	○	72a(*70a)-736(*716)	*42
120	断酪週	土	Mt42	V	Mt6.1-13	○	736(*716)-746(*726)	
121		日	Mt44	V	Mt6.14-21	○	746(*726)-756(*736)	*43
122	大斎第1	土	*Mt	I'	Mc2.23-28; 3.1-5	○	756(*736)-76a(*74a)	*44
123		日	J12	I'	J1.43-51	○	76a(*74a)-77a(*75a)	*45
124	同第2	土	Mc	I'	Mc1.35-44	○	77a(*75a)-776(*756)	
125		日	Mc20	I'	Mc2.1-12	○	776(*756)-786(*766)	*46
126	同第3	土	Mc??	I'	Mc7.31-37	○	786(*766)-79a(*77a)	*47
127		日	Mc85	II	Mc8.34-38; 9.1	○	79a(*77a)-796(*776)	

128	同第4	土	Mc 82	I'	Mc 8.27-31	○	796(*776)-80a(*78a)	*48	
129		日	Mc 91	I'	Mc 9.17-31	○	80a(*78a)-816(*796)		
130	同第5	土	*Mc 25	I'	Mc 2.14-17	○	816(*796)-82a(*80a)	*49	
131		日	Mc 112	I'	Mc 10.32-45	○	82a(*80a)-83a(*81a)		
132	同第6	土	*Mc 94	I'	J 11.1-38, 40-45	○	83a(*81a)-856(*836)	*50	
133		日	*Mc 206	I'	Mt 21.1-11, 15-17	○	856(*836)-87a(*85a)		
134		校の日	*Mc	∅	J 12.-18	○	87a(*85a)-88a(*86a)		
135	聖 週 間	月	*Mt 203	I'	Mt 24.3-35	○	88a(*86a)-906(*886)	*53	
136		火	*J 260	II	Mt 24.36-51; 25.1-30, 31	○	906(*886)-936(*916)		
137		水	*Mt 274	I'	Mt 26.6, 16	○	936(*916)-94a(*92a)		
138		木 晩	Mt 274	II a	Mt 26.2-20; J 13.3-17; Mt 26.21-39; L 22.43-45; Mt 26.40-75; 27.1-2	○	94a(*92a)-1006(*986)		
139		〃 足洗式	*J 112	∅	J 13.1-3; 13.10	○	1006(*986)-101a(*99a)		
140		〃 第2 洗足式	*J 130	I'	J 13.12, 17	○	101a(*99a)		
141		金 早 受難 1	*J 1??	II	J 13.31-38; 14.1-31; 15.1-27; 16.1-33; 17.1-26; 18.1	○	101a(*99a)-111a(*109a)		
142		同 2	J 156	I'	J 18.1-28	○	111a(*109a)-113a(*111a)		
143		同 3	*Mt 1??	I'	Mt 26.57-75	○	113a(*111a)-1146(*1126)		*60
144		同 4	J 176	I'	J 18.28-40; 19.1-16	○	1146(*1126)-117a(*115a)		
145		同 5	Mt	I'	Mt 27.3-32	○	117a(*115a)-1196(*1176)		*61
146		同 6	*Mc 18	I'	Mc 15.16-32	○	1196(*1176)-1206(*1186)		
147	同 7	Mt 332	I'	Mt 27.33-54	○	1206(*1186)-122a(*120a)			
148	同 8	*L 17	I'	L 23.32-41	○	122a(*120a)-1226(*1206)			
149	同 9				×		*63		
150	同 10				×				
151	同 11				×				
152	同 12				×				
153	土	Mt	∅	Mt 27.62	○	123a(*121a)	*64		
154	〃 典	*Mt ???	∅	Mt 28.1-20	○	123a(*121a)-124a(*122a)			

[備考]

- * 1 1a テキストなし。16 上部 Z のための空間、ただし Z なし。
- * 2 Z でのペリコペーの指示 (Am No) は J のみ。No なし。以下数字なしにて福音書略号のみを示すものは同様、いちいち注しない。
- * 3 Am No <J> は <L> の誤り。
- * 4 Z は <НЄ(Д)・СТГО АПЛА ФОМЫ・СУА(Г)・Ω ΙΩ・> [聖使徒トマスの日曜。ヨハネによる福音。]⁽⁹⁾ とあり。
- * 5 Z に曜日指定なく、Am No も J のみ。<J> は <Mc> の誤り。又、26 6 の Mc 16.1 直前に <ВЪСКР(С)・В・> [第 2 日曜] とあり。すなわちバス後第 2 日曜。
- * 6 底本注によれば 24 6 と 25 a の間に 40 葉の欠落あり。1-24 のロシア 13 c 末制作部分末に付されていたものと推定される。通し番号 16-40 に相当。
- * 7 25 a より OCS のカノンに含まれる Sav (11 c, 東ブルガリア) が始まる。
- * 8 Z なし。
- * 9 Am No <*J 193> は <J 153> の誤り。
- * 10 Am No <*J 125> は <J 132> の誤り。
- * 11 ペリコペーは略記述。
- * 12 同上。
- * 13 同上。Inc は I' の後に <ВЪЗВЕДЕ ІС ОЧИ НА ОУЧЕНИКЫ СВОА И РЕЧЕ・> [イエスは両目をおのれの弟子達に向けた、そして言った。] が付加されている。おそらくこの聖句の章の初め (J 17.1) に含まれる <І ВЪЗВЕДЕ ІС ОЧИ СВОИ НА НБО И РЕЧЕ.> (Mar による。Sav なし) [そしてイエスはおのれの両目を天に向けた、そして言った。] をふまえて、付加したものであろう。
- * 14 葉の No は Щепкин 刊本のそれと著しく違うので要注意。すなわち Щепкин 刊本で 140 6, 141 a, 141 6, 28 a である。
- * 15 Z 前半 <НЪ(Д)・И・ПЕНТИКОСТИНА> [ペンテコステの第 8 日曜] とある。Am No <*J 80> は <J 81> の誤り。
- * 16 Am No <*M 183> は <Mt 181> の誤り。
- * 17 Am No <*J 39> は <Mt 39> の誤り。
- * 18 Z 中間に <ПАМА(Т) ВЪХЪ СТЪХЪ・> [全聖人の記念日] とある。Am No <*Mt 83> は <Mt 93> の誤り。グラゴル文字 <Π> (=90) をキリル文字 <П> (=80) と誤認したか。
- * 19 Z 中に曜日の指定なし。
- * 20 Am No <*J 47> は <Mt 47> の誤り。
- * 21 Mt 9.7 欠。OCS のカノン Zog, Mar, Ass にあっても Mt 9.7 は欠けている。ただしロシアの Ostr (676) <И ВЪСТАВЪ・ИДЕ ВЪ ДОМЪ СВОИ>, Arch (32 v) <И ИДИ ВЪ ДОМЪ СВОИ.>, Mst (41 6) <И ВЪСТАВЪ ИДЕ ВЪ ДОМЪ СВОИ.> さらにセルビアの Nik (14) <И ВЪСТАВЪ ИДЕ ВЪ ДОМЪ СВОИ.> とそれぞれ存する。Cf. *καὶ ἐγερθεὶς ἀπῆλθεν εἰς τὸν οἶκον αὐτοῦ.*⁽¹⁰⁾ [すると彼は立ち上がって自分の家へ帰って行った。] ブルガリアの Vat Pal, Dob, Vrac, Ban も欠文。
- * 22 Am No <*Mt 223> は <Mt 160> の誤り。底本注によれば、<Mt 223> はペンテコステ後第 13 土曜のペリコペーにあたる。
- * 23 Am No <*Mt 218> は <Mt 148> の誤り。底本注によれば、<Mt 218> はペンテコステ後第 13 日曜のペリコペーにあたるとするが、正しくは <Mt 219>。
- * 24 Am No <*227> は <Mt 177> の誤り。底本注によれば、<Mt 227> はペンテコステ後第 14 土曜のペリコペーにあたるとするが、本書 Sav では欠葉にて欠文。
- * 25 Am No <*Mt 221> は <Mt 174> の誤り。底本注によれば、<Mt 221> はペンテコステ後第 14 日曜のペリコペーにあたるとするが、本書では欠葉にて欠文。

- *26 Am No <*Mt 242>は〈Mt 189〉の誤り。底本注によれば、〈Mt 242〉はペンテコステ後第15土曜のペリコペーにあたる。ただし本書ではMt 24.1-9欠。
- *27 Am No <*Mt 244>は〈Mt 188〉の誤り。底本注によれば〈Mt 244〉は〈Mt 224〉の誤りであり、これはペンテコステ後第15日曜のペリコペーにあたるとする。ただし当該日曜は後述の如く〈Mt〉と記すのみでNoなし。
- *28 Am No <*Mt 259〉は〈Mt 205〉の誤り。底本注によれば〈Mt 259〉はペンテコステ後第16土曜のペリコペーにあたるとするが、後述の如く当該土曜は〈Mt〉と記すのみでNoなし。
- *29 Am No <*Mt 200〉は〈Mt 193〉の誤り。底本注によれば〈Mt 200〉は〈Mt 269〉の誤りで、かつペンテコステ後第16日曜のペリコペーにあたるとするが、本書では欠葉中において欠文。
- *30 Am No <*Mt 268〉は〈Mt 223〉の誤り。底本注によれば〈Mt 268〉はペンテコステ後第17土曜のペリコペーにあたるとするが、本書では欠葉して欠文。
- *31 Am No <*Mt 157〉は〈Mt 219〉の誤り。底本注によると、〈Mt 257〉はペンテコステ後第17日曜のペリコペーにあたるとするが、本書では欠葉にして欠文。
- *32 底本注によれば49aの前に2葉欠葉。
- *33 Z <C̄m(B) S̄>の〈S̄〉(=6)は〈S̄I〉(=16)の誤り。本書Savは、このペンテコステ後第16日曜で第2サイクルの記載を終えたと考える⁽⁴¹⁾。その判断理由は次注を見よ。ペンテコステ後第16土・日曜で終わることは、注記38で述べることに同じく、Savのsynaxarionの一大特徴である。
- *34 底本注によれば、50aの前に1葉欠葉。底本序文後にするす文献学的記述中の折丁図(p.20)が正しいとみて、落丁1葉とすると、現存496および50aの現状から推量して、この1葉は1000字程度の容量をもつとみられる。496はMt 24.37の間ままで記載されているから、当該ペリコペーが通常通りであれば、その末のMt 29.44まで360字程ある。翻って、50aはL 5.18冒頭から存するが、するとその前には新年第2土曜のペリコペーの初めL 5.17があることになり、その字数は60余。さらにその前には新年第1土曜と同日曜の2つのペリコペーがあったはずで(前者はL 4.31-36、後者はL 5.1-11)、これら全文を記載すると計1260余。総計は1680余字となり、上記落丁1葉分の容量を越えてしまう。よって第1に、第2サイクルのペンテコステ後第17土・日曜はSavには設定されていなかったと判断される⁽⁴²⁾。第2に、この落丁が1葉であるとすれば、容量の点から、ペリコペーの記載の仕方になんらかの工夫があったのではないか(例えば省略記載法など)、等が考えられる。
- *35 底本注によれば、506と51aの間に3葉(?)欠葉か。
- *36 Am No <*L 210〉は〈L 190〉の誤り。
- *37 Am No <*L 224〉は〈L 198〉の誤り。底本注によれば、〈L 224〉は新年第15土曜のペリコペーにあたるとするが、当該ペリコペーL 18.2-8はAm No <214〉であろう。
- *38 Am No <L 246〉につき、底本注は新年第17土曜のペリコペーにあたるとするが、これはкраткий апракос (short aprakos)でもAss, Ostr, Archなどのタイプを基準とした言い方であることに注意せよ。(実のところ、今迄あるいは、以下での底本注における同様の言及は、この基準による)。本書Savの場合、676 (*656)から68a (*66a), L 21.1-4のペリコペーが、さらに68a (*66a)から686 (*666)のℓ.13初めまでMt 15.21-28の新年第16日曜のペリコペーが記載され、次に同ℓ.13に間断なく断肉週前の土曜のZが記されているわけで、Savは元来新年第16日曜で終わっていたと考えねばならない。すなわち上述のAss, Ostr, Archとは別タイプであり、これが注記33で述べたこととともに、Savのsynaxarionの一大特徴であるといえる。
- *39 Am No <*L 15?〉は第3の数字が不読。正しくは〈Mt 157〉。なお底本注によれば、このペリコペーは新年第17日曜にあたるとする。前注参照。

- * 40 Am No <*L 224> は <L 124> の誤り。底本注 <C̄ K̄ D̄> を <225>, <P̄ K̄ Ā> を <125> と読んでいるが誤り。
- * 41 Am No <L> の No 不読。正しくは <L 249>。
- * 42 72 a (*70 a) ℓ.18 <I> の前に聖句番号 <33> を入れるべき。
- * 43 Z 中に <ПАМА(Т) ВАВИ-Н8 ЛСВУ・> [バビュラスとレオの記念日] とあり、その後 Alleluia の指示が記されている。
- * 44 Am No <*Mt> は <Mc> の誤り、No なし。Z 中に <ПАМА(Т) ΘΕΟΔΡΑ・> [テオドロスの記念日] とあり。
- * 45 Z 中に <ПАМА(Т) ПРР(К)МА・МОСИИ И АРОН8・> [モーゼとアaronの両預言者の記念日] とあり、その後 Alleluia の指示あり。
- * 46 Z 中に Alleluia の指示あり。
- * 47 Am No の No は不読。正しくは <Mc 74>。底本注によれば大斎第 4 土曜のペリコペーにあたる。ただし本書では該所 <Mc 82>。
- * 48 底本注によれば大斎第 5 土曜のペリコペーにあたる。ただし本書では該所 <*Mc 25> とあるが、これも <Mc 21> の誤り。
- * 49 Am No <*Mc 25> は <Mc 21> の誤り。底本注によれば大斎第 3 土曜のペリコペーにあたる。ただし本書では注記 47 に述べた如く <Mc 74>。
- * 50 Am No <*Mc 94> は <J 94> の誤り。Z 中に Alleluia の指示あり。
- * 51 Z 冒頭 <…ОСЬ> とあり。Am No <*Mc 206> は <Mt 206> の誤り。
- * 52 Am No <*Mr> は <J> の誤り。Z 中に Alleluia の指示あり。
- * 53 Am No <*Mt 203> は <Mt 243> の誤り。
- * 54 Am No <*J 260> は <Mt 260> の誤り。
- * 55 Am No <*M 274> は <Mt 276> の誤り。ペリコペーは途中省略の示し方。
- * 56 Z 中、曜日指定に続き <ВЕСЧ…> に始まる 1 文あり。晚餐ミサの指示か。なお底本 94 a ℓ.6 の欄外 <Мф 26.1-20> は <Мф 26.2-20> が正しい。すなわち、Inc II a を、Mt 26.1 末 <РЧС ОУЧЕНИКОМЪ СВОИМЪ.> と同一視しない。
- * 57 Am No <*J 112> は底本では <B̄I P̄> となっているが、通常 <P̄ B̄I> と表記すべき。そうであれば、<J 112> で正しい。
- * 58 Am No <*J 130> は <J 115> の誤り。ペリコペーは途中省略の示し方。
- * 59 Am No <*J 1??> の No 部分、原文では <P̄…> とある。正しくは <J 125>。
- * 60 Am No <*Mt 1??> の No 部分、<P̄…> とあるが、正しくは <Mt 306>。
- * 61 Am No <*Mc 18> は <Mc 207> の誤り。
- * 62 Am No <*L 17> は <L 317> の誤り。
- * 63 底本注によれば 122 6 (*120 6) と 123 a (*121 a) の間に 8 (?) 葉の欠。
- * 64 ペリコペーの指示のみで、指定の曜日は落丁した前葉末にあったか。
- * 65 Am No <*Mt??> の No 部分、原文では <…>。なおこのペリコペーは 124 a (*122 a) 末で終了。ここが synaxarion の終わりでもある。124 6 冒頭から menologion が始まる。

5. 以上から浮び上ってくる 1999 年刊校訂本による Sav の synaxarion の特徴は次の通りである。

- 1) 第 2 サイクルはペンテコステ後第 16 週迄、第 3 サイクルは新年第 16 週迄のみが設定されている。

- 2) Inc は I の型のうち I' が多数を占める。(すなわち I と同じとみてよく、ONO を BPBMA の前に置くタイプで、Ia すなわち ONO を後置するタイプを主とする Ostr と異なる)。
- 3) Am No に誤りが多い。また福音書別のみを示す場合も多い。No については、Vat Pal のようにグラゴル文字とキリル文字によって表わされる数値の錯誤に由来する誤記は少なく、むしろ別の原因があるのか。
- 4) 底本注のうち〈～は～のペリコペーにあたる〉という言葉の真意が何であるか、研究篇を俟つべきであるが、無用の混乱を与えかねないのではないか。

これらのうち、1) が最大の特徴点である。4) は 1) に密接に関係し、Sav それ自体の特徴とはいえないが、あえてここに掲出した。

一方、別の視点すなわち, краткий апракос という基準では、次のようなことが言えよう。第一に、Vat Pal — この写本は欠葉が多いが — と比較してみるとこうである。

- 5) Vat Pal は、第 2 サイクルはペンテコステ後第 17 週迄、第 3 サイクルは新年第 17、第 18 週迄設定する。(ただし断肉週の前の土・日曜の設定なし)。しかも、後者第 18 日曜は Sav の断肉週の前の日曜のペリコペーと一致する。
- 6) Vat Pal は、新年第 14 日曜、同第 15 土曜のペリコペーが Sav と一致しない。(同第 15 日曜以下第 17 土曜迄、Vat Pal では欠落)。
- 7) Vat Pal は、大斎第 5 土曜に 2 種のペリコペーを有するのに対し、Sav はその第 1 のペリコペー (Mc 2.14-17) のみを載せる。

第二に、Arch と比較してみると次のようである。

- 8) Arch 全体の synaxarion の構成は Sav によく似ている。しかしながら同異点が存し、イ) 第 2 サイクルはペンテコステ後第 17 週迄⁽¹²⁾、ロ) 第 3 サイクルは新年第 17 週迄を設定する。さらにハ) その次に、断肉週の前の土・日曜を置く。ハ) は Sav に同、イ)・ロ) は Sav に異なる。

9) Arch は、新年第 14 日曜から第 16 日曜迄、Sav とペリコペーが異なる。

Sav の synaxarion 第一の特徴であった上記 1) に、5)・6)・8)・9) は関連がある。すなわち第 2 サイクル、第 3 サイクルのそれぞれの末に日課指定日を増やす必要があったか否か、そしてその必要がある場合に、synaxarion の大きな約束事の枠内でどのように破綻なくペリコペーを調整し配分するか、かかる工夫を反映するものと解される。(上記 4) はこれらと関連があろう)。このことは、第 3 サイクルの場合、現象的には新年第 14 以下でその〈軋み〉ともいうべき写本間での差違が出てきているのであろう。

Краткий апракос と分類される写本中において、かかる事柄がいつ、どこで、どのように発生していったかは、アブラコス研究の一大関心事である。時間的にほぼ同時に発生したものか、あるいは前後して発生したものか、しかしここには東方正教会のアブラコスの実態と、さらにブルガリアついでロシアにおけるアブラコス制作の特徴性という問題も加わり、ことを複雑化していると考えられる。今は事実を上げるのみである。

なお、聖木曜・聖金曜についても細かな異同があるが、ミサとの関連上から、ここでは割愛する。聖土曜の晩のミサにおけるペリコペーは、Sav・Vat Pal・Arch で一致している。

おわりに

Sav の synaxarion につき、1999 年刊新校訂本によってその構成をみてきた。OCS のカノンとしての Sav の特徴点は上記の如きである。東ブルガリアで 11c に制作されたとされる Sav は、ロシア標準語史にとっても重要な資料である。今後コーデクス №14 の後半をなす menologion についても検討を進め、さらに Sav のテキスト全体の研究につなげてゆきたい。

注

- (1) 参考文献 A 4。
- (2) Жуковская (参考文献 C 5, 6) を見よ。
- (3) 参考文献 B 1。
- (4) Metzger (参考文献 C 7, 8), K. Aland-B. Aland (参考文献 C 9), Словарь (参考文献 B 3) 等を参照せよ。
- (5) 曜日の次に小文字で示した略号は次の通り：晩 (禱), 早 (朝禱), 受難 (の 12 福音), 典 (礼)。これらは原文に示された語による。
- (6) Tischendorf (参考文献 A 14) による。
- (7) 以下は標準化正書法によって列挙した。したがって原本では綴り・文字が異なっている。なおローマ数字で示した Inc の型は伝統的なものであるが、それらに付したダッシュおよび小文字アルファベット, $+a$ などは筆者による。
- (8) 刊行本では 10 c と銘打つが、もう少し制作年代が下るとみる説もある。Lunt, Schaeken, 千野論文 (参考文献 C 2, 3, 11) を見よ。
- (9) 引用にあたり上書きの文字は () 内に入れた。また末に付した和訳は筆者による直訳である。
- (10) Nestle-Aland 25 版 (参考文献 A 15) による。
- (11) 服部文昭 <『オストロミール福音書』, 『アルハンゲリスク福音書』, 『ムスチスラフ福音書』—古代ロシア文語萌芽期における位置づけ—> (参考文献 C 12) を見よ。
- (12) 上掲服部論文では Arch に第 17 週の設定があったとみるが、Жуковская はなかったという立場をとる。

参考文献

A. テキスト

- 1) Zog: Quattuor evangeliorum codex Glagoliticus olim Zographensis nunc Petropolitanus [...] edidit V. Jagić, Berolini, 1879. (Rep: Graz, 1954)
- 2) Mar: Quattuor evangeliorum versionis palaeoslovenicae codex Marianus [...] edidit V. Jagić, Berolini-SPb., 1883. (Rep: Graz, 1960)
- 3) Ass: Evangeliarium Assemani, Tomus II. Edidit Jos. Kurz, Pragaе, 1955.
- 4) Sav: В. Щепкинъ, Саввина книга, СПб., 1903. (Rep: Graz, 1959); O. A. Князевская-Л. А. Коробенко- Е. П. Дограмаджиева, Саввина книга, ч. I. М., 1999.
- 5) Nik: Ђ. Даничић, Никольско јеванђеље, у Биограду, 1864.
- 6) Ostr: А. Востоковъ, Остромирово евангеліе 1056-57 года, СПб., 1843. (Rep: Wiesbaden, 1964; М., 2007); Остромирово евангеліе 1056-1057, Факсимильное

воспроизведение, Л.-М., 1988.

- 7) Arch: 岩井憲幸・服部文昭 翻刻本, 私家版, 2005; Л. П. Жуковская и др, Архангельское евангелие 1092 года, М., 1997; Архангельское евангелие 1092 года, Издание Румянцовского музея, М., 1912.
- 8) Mst: Л. П. Жуковская и др., Апракос Мстислава великого, М., 1983.
- 9) Vat Pal: Т. Кръстанов и др., Ватиканско евангелие, Старобългарски кирилски апракос от X в. в палимпсестен кодекс Vat. Gr. 2502, София, 1996.
- 10) Dob: Б. Цоневъ, Добръйшово четвороевангеле, Сръднобългарски паметникъ отъ XIII вѣкъ, София, 1906.
- 11) Vrac: Б. Цоневъ, Врачанско евангеле, Сръднобългарски паметникъ отъ XIII вѣкъ, София, 1914.
- 12) Ban: Банишко евангелие, Среднобългарски паметник от XIII век, София, 1981.
- 13) А. А. Алексеев и др., Евангелие от Иоанна в славянской традиции, СПб., 1998; Евангелие от Матфея в славянской традиции, СПб., 2005.
- 14) C. Tischendorf, *Novum Testamentum Graece*, Editio octava maior, vol.1, Lipsiae, 1869. (Rep: Graz, 1965)
- 15) E. Nestle, K. Aland, *Novum Testamentum Graece*, Ed. 25, London, 1975.

В. 書誌・辞典・事典類

- 1) Сводный каталог славяно-русских рукописных книг, хранящихся в СССР, XI-XIII вв., М., 1984
- 2) Българска ръкописна книга X・XIII в., Каталог, София, 1976.
- 3) Словарь книжников и книжности древней Руси, Вып. I (XI-первая половина XIV в.), Л., 1987.
- 4) *Slovník jazyka staroslověnského*, I-IV, Praha, 1966-1977. (Rep: Словарь старославянского языка, I-IV, СПб., 2006)
- 5) 上智大学, カトリック大辞典, I-V, 富山房, 昭和 15-35。
- 6) 上智学院, 新カトリック事典, I-IV, 研究社, 1996-2009。
- 7) 小林珍雄, キリスト教用語事典, 東京堂出版, 昭和 47 (第 9 版)。

С. 文法書その他

- 1) 木村彰一, 古代教会スラブ語入門, 白水社, 1985。
- 2) H. G. Lunt, *Old Church Slavonic Grammar*, Seventh Revised Ed., Berlin-N.Y., 2001.
- 3) J. Schaecken, H. Birnbaum, *Die altkirchenslavische Schriftkultur*, [...], *Altkirchenslavische Studien* II, München, 1999.
- 4) M. Garzaniti, *Die altslavische Version der Evangelien*, Köln-Weimar-

Wien, 2001.

- 5) Л. П. Жуковская, Текстология и язык древнейших славянских памятников, М., 1976.
- 6) Л. П. Жуковская, 〈Об объеме первой славянской книги, переведенной с греческого Кириллом и Мефодием〉, Вопросы славянского языкознания, вып. 7, М., 1963.
- 7) B. M. Metzger, The Early Versions of the New Testament, Their Origin, Transmission and Limitations, Oxford, 1977.
- 8) B. M. Metzger, Manuscripts of the Greek Bible, An Introduction to Palaeography, Oxford, 1981.
- 9) K. Aland, B. Aland, Der Text des Neuen Testaments, Stuttgart, 1982; Translated by E. F. Rhodes, The Text of the New Testament, Grand Rapids-Leiden, 1987.
- 10) K.-H. ビーリッツ著, 松山與志雄訳, 教会暦, 教文館, 2003。
- 11) 千野栄一, 〈ヴァチカン・パリンプセスト・キリール・アブラコス〉, 「窓」106, ナウカ, 1998年8月。
- 12) 岩井憲幸・服部文昭, 古代ロシア文語萌芽期の最終期における言語特性について, 平成18年度～平成21年度科学研究補助金(基盤研究C)研究成果報告書, 私家版, 平成22年。

【本稿は平成22年度～平成25年度文部科学省・日本芸術振興会の科学研究費補助金(基盤研究(C), 課題番号22520332)による研究成果の一部である】

(いらい・のりゆき 文学部教授)